

## 学習者はどう感じたのか ——短期交流プログラムへの参加を通して——

Nida LARPSRISAWAD、前野 文康

### 1. はじめに

現在、タイ人日本語学習者を日本へ短期間送り出す機会は増えており、タイは出身国別短期留学生数では5位に入る多さ<sup>(1)</sup>だが、短期間<sup>(2)</sup>の日本滞在で得られる成果や変化について言及した研究は見当たらない。したがって、短期交流プログラムにはどのような効果があるのかを考える必要があると思われる。

また、短期交流プログラムを実施している教育機関は複数であり、日本での活動内容は滞在先によって異なる上、送り出し側がプログラム内容の変更などを行うことは難しい。したがって、送り出し側ができることは何かを考察していく。

さらに、タイからの短期交流プログラム実施例は多数あるが、滞日時の具体的な活動内容の記録を残すという報告はまだ少ないと思われる。プログラム参加者が何を行い、何を感じたのかがわかれば、よりよいプログラムを実施していくためのデータになるであろう。

### 2. 短期交流プログラムの概要

筆者の勤務校（以下、KMITL）では、学生の国際交流と日本語学習を推進することを目的として、毎年1回短期交流プログラムを実施している。対象は、日本語専攻のタイ人大学生で、期間は約3週間である。参加希望の受付にあたっては、選考試験などはなく、参加費が出せばだれでも参加できる。例年、タイの夏休みである4月から5月末までの期間で行っているが、2011年度は東日本大震災の影響があり、10月に実施した。参加者は、2年生8名、3年生4名、4年生3名であった。受け入れ側は、学部間・大学間協定を結んでいる日本の大学で、現在東京と福岡の2大学のみであるが、KMITLとしては、今後協定先を増やしていく方針である。参加費用は、基本的には私費だが、2011年度には、日本学生支援機構の奨学金に採択され、参加者の主な負担は航空券代と滞在費（食費や交通費）のみだった。日本での活動内容としては、おおむね日本語の授業と文化体験（茶道や華道など）があるが、タイ日学生交流やスピーチ大会への参加など、滞在先や年度により異なる場合が多い。

本稿では、上記の2011年度プログラムに参加した学習者に対して実施した、言語知識・読解の試験、アンケート、活動記録の分析をもとに考察する。

### 3. 分析

#### 3.1 言語知識・読解の試験

日本に行く意味が、日本語能力が上がることのみということではないが、日本語専攻の学習者が目指すものの一つだと捉え、分析対象とした。口頭能力については 117(2555)において、インタビューの録画資料より、会話能力が向上し、自信がついている様子が観察された。そこで本稿では、訪日の前後に、筆記試験として実施した同一の日本語能力試験「言語知識・読解」<sup>(3)</sup>の結果について考察する。レベルは、3・4年生は N2、2年生は N3 である。N2 の問題数は 31 問、N3 は 28 問と異なるので、パーセントで表した。以下が全体の平均点の変化である。

表1 言語知識・読解の平均点の変化

参加前	参加後	t
49%	55%	1.90

全体としては点数が上昇しており、t 検定の結果も有意差があることを示している。したがって、短期交流プログラムに参加したことにより、言語知識・読解面の日本語能力が全体として上昇したと言える。

#### 3.2 アンケート

訪日の前後の変化を見るためにアンケートを実施した。質問項目の作成にあたっては、これまでの短期交流プログラム参加者の感想などを参考に筆者らで検討を行った。形式は、質問項目に対し「はい」か「いいえ」で答え、その理由を記述するものや、考えを自由記述するものである。言語知識・読解の試験のように、訪日の前後に同様の内容を尋ねた。全 21 項目のうち、前後の回答数に差が目立った質問項目を下に示す。

表2 差が見られた質問項目

1.日本の交通機関について知ることができる（できた）と思いますか。
2.日本人学生と一緒に勉強することが経験できる（できた）と思いますか。
3.生の日本語（教科書にはない日本語）を勉強できる（できた）と思いますか。
4.あなたの潜在的な日本語能力を引き出すことができる（できた）と思いますか。
5.知り合った日本人の学生と、どのような関係に発展していくと思いますか。
6.語学の習得（日本語の習得）にとどまらず、日本人と本当の意味での国際交流ができる（できた）と思いますか。
7.嫌なことや辛いことがあると思いますか（ありましたか）。

1.の項目で、事前アンケートに見られた回答は、「いいえ」を選び、「日本では電車をよく使うようだが、交通機関は複雑だろうから、よく知ることができるかどうか疑問」や「日本では歩いて歩くのではないかなどで、訪日経験がないことやインターネットやテレビからの断片的な情報も手伝い、複雑な日本の交通機関をうまく利用できるかどうか不安に思っている様子が窺える。一方、事後アンケートに見られた回答は、「いいえ」が0になり、「電車やバスなどで自分の行きたい所へ行けたので、よくわかった」などの回答が目立った。

2.の項目で、事前アンケートに見られた回答は、「日本人とコミュニケーションをとることにより、日本語が上手になる」や「日本語の知識よりも実際の使用経験を得ることができる」などで、事後アンケートでは、「日本人学生は優しかった。日本語のことを教えてくれた」や「クラスの雰囲気がよくわかった」、「嫌な目で見られたこと以外は、勉強や意見交換がたくさんできた」などであった。この変化は、訪日前は日本語の言語形式のみに言及していたものが、訪日後は、人と人とのコミュニケーションにも目を向けられるようになってきていることを示していると言える。

3.の項目で、事前アンケートに見られた回答は、「自分は日本語が上手じゃないので、勉強することが難しいだろう」という回答が目立ったが、事後アンケートでは、「博多弁が勉強できた」や「教科書にはない若者言葉がよくわかった」、「お酒の席で、あまりよくない言葉の使い方もわかった」などの回答があった。これは、参加前は自身の日本語能力に自信がなく、日本人との会話などから生きた日本語を学ぶことはできないのではないかと思っていたのが、参加後は日本人との交流を通し予想以上に学ぶことができたことを示している。

4.の項目で、事前アンケートでは、無回答が多かったが、書かれた回答は、「日本語を使う機会が多いだろうから、ときどき必要になるのではないかなどが見られた。参加後は無回答はなくなり、「日本にいるとき、タイ語では通じないので、日本語で頑張って話した」や「日本へ行く前は授業外で日本語を使う機会がほとんどなかったのが不安だったが、もうやるしかないときが来ると、なんとなくいけるかもしれないと思えるようになった」などがあった。この項目からは、行く前は日本語を話す上で困る場面はあまりないのではないかと思っていたのが、行ってからは予想以上に大変な場面があったこと、そして、その場面を何とか乗り切ろうとした姿勢が窺える。

5.の項目で、事前アンケートでは、「直接会うことがないので、交流を続けることは難しいだろう」や「本当に仲がよくなったら、続くかもしれない」などが見られた。事後アンケートでは、「いつもフェイスブックで連絡している」や「日本人や韓国人の友達もタイへ来たがっているの、来たら案内したい」などがあった。これは、行く前は交友関係が続くかどうか不安に思う意見があったが、参加後はつながりは保て、さらに、個人間での交流が維持できていることを示している。

6.の項目で、事前アンケートでは、「短期間なので、深く知り合うことはできないと思う」などの回答や、「はい」を選んでいてもその具体的な内容を記述できていないことが多かった。参加後

は、「短期間でもいろいろなことを話して、たくさんのがわかるようになった」や「ときどきタイ語で話しても日本人はわかってくれた」などの記述があった。この変化から、参加前は期間が短いので、日本人との交流はあまりできないのではと思っていたのが、実際には個人間での深い交流があったことが窺える。

7.の項目で、事前アンケートでは、「いいえ」を選び理由を書いていないものが多かったが、事後アンケートでは、「レストランでタバコが吸えること」、また「タイ人との仲間割れがあった」などの記述が見られた。これは、日本へ行ってから問題点がより具体的になったこと、国籍に関係なく個人間での摩擦があったことを示している。

### 3.3 活動記録

プログラム参加時の経験や感想を書き留めるために、「したこと」と「思ったこと」を記入する活動記録を配布した。「日々の発見や驚きというのは、その時点で振り返らなければ、すぐに慣れ、忘れてしまうものである」と言う石井・熊野（2008：6）と同様の立場から、毎日の記述とした。以下は活動記録のひな形である。

2011年10月17日（月）		
時間	したこと	思ったこと
例 10:00	日本語の授業	先生の話し方が速かった。
一日を振り返って（よかったことや問題点など）		

図1 活動記録のひな形

短期交流プログラム終了後、活動記録を回収し、記述内容の分析をしたところ、次の2つの種類があることがわかった。一つは、短期交流プログラム全体を通して、持ち続けている目標や興味などがあるもので、もう一つはそれがないものである。自分なりのテーマを持ち続けている学習者の活動記録には、約3週間に渡り貫かれた目標や興味が書いてあり、達成や意見の深まりが

認められる。一方、目標などがない学習者の活動記録には、その場その場の感想に終始し、短期交流プログラム全体を通して得たものがあいまいであった。以下に目標などがあるものとないないものの例を示す<sup>(4)</sup>。なお、「目標がある」や「特定の興味がある」と筆者が判断した根拠の部分を実字にした。

1日目	<p>新しい友達の【人名】と言う日本人のお世話に、【大学名】のまわりに案内してもらいました。とても広がったですが、すばらしい大学だと思います。</p> <p>※今日はたくさん日本人に会いました。【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん</p> <p>ずっと日本人の友達が欲しくて、日本に来ましたので、たくさんの日本人の友達を作るつもりです！</p>
2日目	<p>おおぜいの留学生に会いました。大米人、韓国人、中国人、日本人の新しい友達を作られました。食事をしながら、色々おしゃべりとても楽しかったです。写真も一杯撮りました。うれしかったです。</p> <p>※今日もたくさん日本人の友達になりました。【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん、【人名】さん</p> <p>今朝目覚時計を7:30時にしましたが、まだ日本の時間に変えていなかったからあさねぼうしてしまいました。友達の約束に間に合いませんでした。これから、注意しま〜す。( _ _ ;)</p>
3日目	皆さんと一都に晩ごはんを食べて、とても楽しかったです。
4日目	色々な雑誌を見て、ファッション言葉を説明もらって、友達と一都研究しました。
6日目	ぐうぜん500円のおいしいお弁当を買えました。友達と池のへりに昼ご飯を食べました。
9日目	P.S. 今日、ちょっとおなかが痛くて、夜も一人で寮に先に帰って、友達と一都に晩ご飯を食べませんでした。(T_T)
11日目	今日の3時に知事に会おう予定なんです、フルーツ狩りトリップが中止されたので、その前に【人名】さんと【人名】さんは私たちをださいふ神社に連れて行ってくれました。
	予言の紙に難しい日本語が書いてあるばかりなので、【人名】さんに読んでもらいました。
12日目	今日【人名】と友達と一緒に【施設名】へ行きました。でも、その前に博多駅で【人名】の友達の【人名】くんに来て、行きました。
14日目	たくさんのどうりょうのせんぱいが自己紹介してくれましたが、名前が難しく、覚えにくいですから、覚えません。でも、一人のやさしいせんぱいが覚えます。【人名】と言う名前です。
16日目	今日、朝から【人名】さんに会いませんでした。最初は彼女は休みだと思っていましたが、仕事が

	<p>終わったあと、[人名]さんは事務所で待ってくれました。彼女はたくさんのおみやげを買って待ってくれたんです。私たちはただ短い言葉で「元気でね。」「また日本に来たら私に連絡してね一都に遊びに行きましょう。」と話しました。</p> <p>今はもっと友達が作れて、いい思い出になりました。皆、ありがとう！</p>
18日目	<p>(スピーチ大会で)優勝した人は韓国人でした。名前は[人名]です。今は仲間がいい友達になりました。</p>
19日目	<p>今日[人名]はタイに行きます。</p>
最終日	<p>[人名]、[人名]、[人名]、[人名]、[人名]、[人名]、[人名]、[人名]とボリングを遊びました。皆とゆっくり食べながら、色々な事おしゃべりしました。とても楽しかったです。たくさん写真を撮りました。今日笑顔で帰りたいのですが、泣いてしまいました。でも、そのなみだは幸せのなみだです。</p>

表3 目標がある活動記録

表3の学習者は、一日目に「日本人の友達を作る」という目標を設定し、知り合った日本人の名前を書き込んでいた。その後も友達と行ったことに焦点を絞り、記述していることがわかる。16日目の一般企業でのインターンシップでは、日本人社員との個人間での交流ができ、友達になれたようである。そして、最終日の記述には感動のあまり涙を流したと書いてあることから、深い友情を築けたことが窺える。したがって、この学習者は所期の目標が達成できたと言える。次に特定の興味があると認められる活動記録を示す。

1日目	<p>みんなは普通のようにしていたからこっちも落ち着いた。</p> <p>疲れたみたいだったので、大変だったが、先生方がフォローしてくれた。</p> <p>みんなとてもおもしろくて、暖かい感じな飲み会だった。</p> <p>今日の飲み会はとても楽しかった。まだ話していない人とも話せし、みんな盛り上がっちゃって、おもしろかった。</p>
2日目	<p>パンとコーヒーを取っていたところ、スタッフが「スープもあるよ」と声をかけてくれたから、スープももらっちゃった。ときどき細かいことをいちいちスタッフさんに聞いたけど、いつも笑顔で答えてくれる。感動した。</p> <p>[人名]先生は私達がまだ日本語が上手に使っていないの気づいて、優しく指導してくれた。</p>
3日目	<p>[人名]さん、[人名]さんと[人名]さんが手伝ってくれた。もっとわかるようになった。</p> <p>電車を何回も乗り換えて、一人で行ったら、迷ってしまうかもしれない。</p> <p>みんなは買物に行ったけど、私の足に傷がついてしまったから、[人名]さんと一緒に[店名]でゆ</p>

	<p>っくり休んだ。私の足が痛いとわかってからずっと心配してくれた [人名] さんには感謝している。</p>
4日目	<p>サポーター学生はみんな真面目に都内見学プランを立てた。嬉しかった。プランを立てたとき、みんなは協力して真面目にした。外 (タイ) ではこんな風影があまりないから、ちょっと感動した。</p>
10日目	<p>日本人の学生は少しタイに興味がありそうだったので、嬉しかった。今日は吉祥寺まで [人名] さんという日本人の学生と一緒に行動をした。公園にいるときはたくさん話ができよかった。</p>
13日目	<p>花火をやったときはみんな子供のように、一緒に遊んだ。たまにはいいと思う。</p>
14日目	<p>[人名] さんとペアになって、「ごはん」と「みぞしる」と書いたプラビンを作った。タイ語のも作った。他のペアもおもしろい単語で作った。</p> <p>この2日間はみんなと色々なことができ、とてもよかったと思う。たくさん遊んで、仲が良くなっていったら嬉しい。</p>
15日目	<p>ごはんを食べながら、明大祭の準備をしている学生を見ていた。もうすぐ明大祭だから、みんなは非常に元気そうだった。みんなは明大祭を楽しみにしていそうだから、見ると私も元気が出る。</p>
17日目	<p>タイ語を教えているとき、日本人の学生達が真面目に聞いてくれた。その後、4年生の [人名] さんと [人名] さんとタイについて話した。二人ともたくさんタイのことを聞いた。とてもうれしかった。</p>
18日目	<p>12人もいるので、とてもにぎやかだった。私の好きな曲 ([曲名]) を2回もみんなで歌った。[人名] さんと一緒に [ゲーム名] をやった。とても強くて、びっくりした。</p>
19日目	<p>先生方とサポーター学生が集まった。先生方とたくさん話した、褒める人もいて、うれしかった。</p> <p>今日はプログラムの修了なので、みんなは最後まで盛り上がった。普段おとなしい人も一緒に楽しんでくれた。今日は晚ごはんのとき、たくさんみんなとおしゃべりして、一緒においしいごはんを食べられるのがとてもいい思い出になるだろう。</p>
最終日	<p>21日は本当に速く過ぎ去った。私にとって、今回、日本に来たことがきっと大切な思い出になると思う。サポーター学生と一緒に行動をして、たくさん話して、タイと日本のきずなを深くできたらしいなと思っている。</p>

表4 特定の興味がある活動記録

表4の活動記録の記述内容からは、この学習者が「力を合わせることや思いやり」に関心を持ち、日本を見ていたことが読み取れる。日本人サポーター学生や教員との交流などを通し、全体のことを考えて行動をする姿に感動したとも述べられており、最終日には、タイと日本のきずなを深くできたらしき書かれている。協力や自分以外の人のために何かをする、結びつきの力の大切さを見つめ直せたのではないだろうか。次は目標などが無い活動記録である。「目標がない」と判断した根拠は全体的に見てのことなので、部分的に注目するために太字にすることはしていない。

1日目	日本人がとてもしんせつです。
2日目	ねむかった。
3日目	はかたべんを勉強した。むずかしかったけど、おもしろかった。
4日目	いちごだいふくがとてもおいしかった。でも、1個に200円は高かった。
6日目	料理がおいしかった。
9日目	ことばが難しかった。でも、先生はじっけんすることを見せてくれて、おもしろかった。
11日目	ペット屋に犬とねこがいる。とてもかわいかった。
12日目	天気がすずしかった。ねむかった。
14日目	[大学名]の前に晩ご飯を食べた。おいしかった。
16日目	チキンがおいしかった。でも多いですから、おなかがいっぱいだった。
18日目	[人名]と[人名]がスピーチコンテストに出るから、うれしかった。
19日目	うどんを食べた。からかった。
最終日	かんこくじん、日本人の友だちとボーリングに行った。たのしかった。

表5 目標などがない活動記録

一方、表5の学習者にはプログラム全体を通しての目標や興味はなく、直面した状況での感想を述べるにとどまっている。日本での滞在でも受け身の姿勢で過ごしていたことが窺える。

表3と表4の学習者は目標や興味を記述し、最終日には得られたものがあつたと見受けられる。一方、表5の学習者は記述内容が単発的で、得られたものが読み取れなかった。短期交流プログラムは単なる観光と異なるという立場に立てば、表5のような記述しか見られないのは充実した経験ができたとは言えないのではないだろうか。活動記録の形式に問題があつた可能性も否定できないが、活動記録の配布に際しては、記述する目的や意図を明確に理解できるような仕組みや働きかけが必要であると考えられる。

## 4. まとめ

### 4.1 結論

今回の考察により、短期交流プログラム参加の効果や変化として、以下のことが明らかになった。

- (1) 全体的に言語知識・読解の点数が上昇した。
- (2) アンケートの記述内容がより具体的で適切になったことから、日本に対する理解が深まったことが窺えた。

- (3) 活動記録の記述内容から、目標や興味などを明確に持っている学習者は充実した経験ができたが、一貫した目標などがない学習者は得たものがないことが窺えた。したがって、送り出し側ができることとしては、訪日前に目標設定などのため働きかけることが挙げられる。

#### 4.2 今後の課題

本稿では、短期交流プログラムに参加することにより、言語知識・読解の点数が上昇し、日本に対する理解がより正確で、適切になったことが明らかになった。しかし、活動記録の分析から、プログラム全体を通した目標や興味がない学習者は得られたものがないことがわかった。今後は、参加者一人一人がテーマを持ち、充実したと思えるような仕組み作りを模索していきたい。

また、このような私費の訪日プログラムでは参加費用が払えないため、参加できない学習者もいると思われる。そのような学習者にも、参加者の報告会などにより、知見を共有できるような機会を考えていきたい。

#### 注

(1) 平成23年度に訪日したタイ人短期留学生数は第5位(299人)で、第3位アメリカ(877人)、第4位台湾(605人)に次ぎ、全体の3.3%を占めている。日本学生支援機構「出身国(地域)別短期留学生数」『平成23年度外国人留学生在籍状況調査結果』

<[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/data11.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data11.html)> 2012年2月21日

(2) 本稿では、約3週間とする。

(3) 国際交流基金、日本国際教育支援協会「新しい日本語能力試験問題例集」『受験者向け：問題例に挑戦しよう』<<http://www.jlpt.jp/samples/forlearners.html>> 2011年8月10日

(4) 学習者の記述のままを載せ、筆者が手を加えたのは、[ ]の個人情報、( )の補足説明である。

#### 参考文献

石井容子・熊野七絵(2008)「日本語・日本文化社会への気づきを促す『研修活動の記録』—自律学習への意識化を目指して—」『2008年度WEB版日本語教育実践研究フォーラム報告』、pp1-10

熊野七絵(2008)「大学生短期訪日研修における体験交流活動型のコースデザイン」『広島大学留学生センター紀要』第18号、pp31-46

鈴木由美子(2007)「タイ北部中等教育機関におけるプロジェクトワーク実践報告—ユパラートウイッタヤライ校と京都府立東宇治高等学校との文化交流プログラムから—」『国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要』第4号、国際交流基金、pp131-140

นิตา ลากศรีสวัสดิ์, Fumiyasu Maeno.(2555) การพัฒนาทักษะการเรียนรู้จากประสบการณ์จริงของนักศึกษาโครงการแลกเปลี่ยน  
นักศึกษาระหว่างสถาบันเทคโนโลยีพระจอมเกล้าเจ้าคุณทหารลาดกระบังกับมหาวิทยาลัยในประเทศญี่ปุ่น.

กรุงเทพฯ: การประชุมวิชาการทางการศึกษาระดับชาติ ครั้งที่ 2 “การพัฒนาประสบการณ์การเรียนรู้ในชีวิตจริง: การศึกษาเพื่อการพัฒนา  
อย่างยั่งยืนไปสู่ประชาคมอาเซียน”